

公益の風 #39

東北公益文科大学大学院 公益学研究所 修士生
鶴岡商工会議所 職員

相田 涼



一期生として公益大
大学院へ進学し修士論文
「北西太平洋地域におけ
る海洋ごみ問題の現状と
課題—ICCの手法を用
いた環境教育の有効性を
めぐって—」を執筆しま
した。当時は、今では一
般的となっている「マイ
クロプラスチック」とい
う言葉や「スポゴM
I」活動が生まれる前
で、海洋ごみが環境や生
物へ及ぼす悪影響も一
部の人しか知らない問題
で、そこで私は、環境問題

想像力と創造力を発揮し、縁の下で地域を支援する

は人々の無知によるこ
ろが大きいのではないか
という仮説を立て、海洋
ごみ問題の根本的な解決
策として、環境教育の有
効性を検証する研究を行
いました。そこで着目し
たのが「ICC（国際海
岸クリーンアップ）」と
いう手法です。

ICCは、世界共通の
データカードを使用して
水辺・水中に漂着散乱す
るごみを回収しながら、
その品目別個数を計測
し、海洋ごみ問題点を
参加者一人ひとりに気
付けてもらいながら改善す
るための方策を探る、国
際的な調査・清掃活動で
す。

ICCは現在も世界中
で展開しており、こうし
た活動が続けられた結
果、今では、海洋ごみ問
題は「五大環境問題」の
一つとして認知され、削
減に向けた取り組みが各国
で行われています。

私は現在、鶴岡商工会
議所で会員事業所の経営
支援や地域経済の活性化
に資する仕事に携わって
います。「環境」と「経済」
は一見関連性が低いよう
にも思われますが、その
重なりを考えることが問
題解決につながることに
あります。大学院での研
究活動を通して培った思
考スキルは、私の現在の
仕事において大きな役割
を果たしています。
企業の経営課題を分析

し、解決策を提案する際
には、問題の本質を的確
に捉え、論理的に思考す
るスキルが不可欠です。
また、企業経営者とのコ
ミュニケーションを円滑
に進めるために、相手の
立場に立って考えるスキ
ルや、分かりやすく説明
するスキルも必要です。

新規事業の立ち上げや
事業拡大のための計画策
定を支援する際には、市
場調査や競合分析などを
通じて情報収集を行い、
分析するスキルが求めら
れます。また、計画を真
体的に実行に移せるよう
、スケジュール管理や
リスク管理なども行う必
要があります。

市民が参加できるイベ
ントを企画運営する際
には、企画段階から実行段
階まで、様々な課題を解
決しなければなりません。
そのため、問題解決
力、論理的思考力、
コミュニケーション
スキル、情報収集力
など、様々な能力
を駆使する必要があります。
これら
のスキルは何れも
大学院での研究活
動を通して習得し
たスキルだと考え
ています。

近年、私は鶴岡
サイエンスパーク
を広く市民に知っ
てもらったためのイ
ベント「鶴岡サイ
エンスパークまつ

り」の企画運営に携わっ
ています。2023年に
初開催した「鶴岡サイエ
ンスパークまつり」は、
関係各所との綿密な準備
の甲斐あり大変多くの
方々から来場いただき、
サイエンスパークについ
ての市民理解向上に貢献
することができました。
実現までは大変な困難が
ありましたが、これまで
培ってきた「想像力」と

「創造力」を発揮できた
成果だと感じています。
今後も大学院や仕事で
培ったスキルを活かし、
縁の下で地域を支援し
地域経済の発展に貢献しま
す。

今年の「鶴岡サイエ
ンスパークまつり」は11月
2日（土）に開催しま
す。昨年にも増して魅力
的なイベントになります
ので、皆さまのご来場お
待ちしています。

「見たい・知りたい」バイオな未来!!

2024年11月2日(土) 開催
<https://tsuruoka-sp-fes.jp/>